

令和元年度第2回 沼津市総合教育会議 議事録

- 開催日時 令和2年1月20日（月曜日）15時00分～17時00分
- 開催場所 沼津市役所水道部庁舎3階会議室
- 出席者 市長 頼重 秀一
教育長 奥村 篤
教育委員 重光 純
教育委員 三好 勝晴
教育委員 土屋 葉子
教育委員 川口 浩史
- 協議・調整事項
沼津市教育大綱の策定について

【内容】

1 開会

2 市長挨拶

本日は、年頭の大変お忙しい中、このようにお集まりいただき誠にありがとうございます。また、皆様方におかれましては、令和2年の新春を健やかに迎えられ、お過ごしのことと存じます。私事ですが、1月1日、「元旦歩こう会」に参加しました。この歩こう会は、沼津市内では各地域で行われているとのことですが、地域の自治会の皆様方、子ども会の皆様、そして青少年健全育成に取り組んでいらっしゃる方々、このように非常に多くの皆様の御理解を得て毎年開催されているところです。私の参加した金岡地区では、江原素六先生顕彰会の会長が、毎年式典で御挨拶をしております。江原素六先生は、皆様御存知のとおり地域の産業の基礎を築いただけではなく、正に地域の教育の基礎を築いた方でもあります。沼津兵学校にもゆかりのある方ですが、江原先生が常に念頭に置いておかれた言葉が「青年即未来」です。このような理念を基に教育にあたられていました。地域においては、江原先生の考え方を基に様々な取組を行っている学校があると聞いております。

また、1月4日に戸田地区において、1月12日にはその他の地区において、今年から名称を変えて、新成人をお祝する「二十歳の集い」が開催されました。これも「青少年を健やかに育てる会」の皆様の御理解御協力を得て実施しています。沼津市では昭和55年に青少年健全育成都市宣言を行いました。そのことを誇りに、地域の皆様との連携により「地域の子どもは地域で育てる」という強い意識を持つ

て様々な事業を展開しています。「二十歳の集い」においても、新成人の皆様からふるさと沼津に対する熱い思いを聞かせていただきました。私自身も子どもが同年代であり、正に自分の子どもを見るような思いで新成人を見て、胸が熱くなりました。「まちづくりは人づくり」につながっていくものと考えます。人が沼津の未来を築いていきます。

この総合教育会議は、未来を担う子どもたちのためにも重要な議論となるものと考えております。そして、教育委員の皆様と市長が綿密に連携を取りつつ、意思疎通を図りながら沼津の教育を確固たる方向に持っていくために市長が開催するというものであります。本日は、今後の沼津市の教育のあり方について議論を進め、さらにより良き方向に持っていきたいという強い思いでおります。是非ともこの会議を有意義なものとしていきたいと思っておりますので、御理解御協力を賜りますようお願いいたします。

3 教育長挨拶

改めまして、皆様こんにちは。

議員の皆様をはじめ、学校関係者の皆様もたくさんお集まりいただき、ありがとうございます。また頼重市長におかれましては、前回9月に引き続き、総合教育会議を開催いただき、教育委員会を代表して御礼を申し上げます。

一昨日は非常に寒い、みぞれまじりの天候でしたが、昨日は、非常にいい天気でした。その昨日ですが、頼重市長と一緒に愛鷹広域運動公園で沼津市駅伝競走大会に出席しました。この大会は、66回目を数えるということで、終戦直後からずっと続けられている大会であり、本当に歴史の深い大会であるとしみじみと感じました。中学生男女から高校生、一般の方、その中でも若い方からお年を召した方まで幅広い年齢層の方々が参加して、1本のたすきをつないでいく姿に、御家族、同僚、友人がたくさん応援をしながら、約1人1周、中学生が2キロ程度、一般の方がもうちょっとありますが、アップダウンの激しいコースを気持ちよく最後の最後まで走り抜いていく姿を見て、スポーツというものは、見ている人にも感動を与え、元気を与え、走っている人たちも、本当に達成感に満ちた清々しい顔をしているものだと思います。中には、中学生からこの大会に出て、高校生、社会人になっても参加しているという方々もたくさんいました。この大会から、人間関係の大切さ、自分に強い気持ちが持て自信が付いた、あるいは病弱な身体が健康になったという話も聞いています。是非とも70回、100回という回を重ね、沼津市の未来を担う人たちが逞しく育ってほしいと思いました。

今回は、御案内のとおり「沼津市教育大綱の策定」について議題としました。市長と教育委員会とが一緒に話し合っていていくということであり、この後、それぞれの立場から様々な角度で活発な意見が交わされて、教育大綱の策定に向けて着実な前進となる大変意義のある会議となることを期待しているところです。

短い時間ですけれども、本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

(出席者紹介)

4 協議・調整事項

沼津市教育大綱の策定について

会議の進行は、沼津市総合教育会議設置要綱に基づき、座長である市長が行う。

(市長)

昨年9月に総合教育会議を開催し、教育委員と沼津市が目指す教育について意見交換を行い、沼津の教育の充実に向けて貴重な意見を伺った。意見交換を行う中で、また、現在策定中の第5次沼津市総合計画、国の教育振興基本計画などを踏まえて取組を進め、置かれている課題をしっかりと解決しながら誇り高い沼津の未来を担う人づくりを進めるためには、平成28年2月に策定した教育大綱は、変えていく時期に来ているとの認識を持つに至ったところである。

このため、本日は、教育大綱の策定に向けた検討を進めていきたい。

教育大綱は、法に基づき、総合教育会議において教育委員会と協議した上で、最終的には、市長が定めるものであるが、私は、教育委員の意見を聞き、十分に協議を重ねて策定していきたいと考えている。

最初に、教育大綱の策定にあたってのスケジュールを示し、意見を伺いたい。

それでは事務局から説明する。

(事務局)

教育大綱の策定スケジュールを次のように示す。

令和2年1月	本日の会議（教育大綱策定の論点整理）
令和2年4月頃	会議（教育大綱の素案）
令和2年7月頃	パブリックコメント
令和2年10月頃	会議（新しい教育大綱の決定）

(市長)

事務局からのスケジュールに関する説明に対し、意見等いかがか。

(委員)

新しい教育委員会制度になったが、その前まで教育委員会は独立した執行機関であった。新しい制度になり、首長が大綱をこしらえて、教育について方向性を定めていく。沼津市は、平成28年に策定した大綱が最初で、それから変えていない。大綱は、本当に市長の思いが色濃く反映されるものであるので、会議を開い

て我々の意見も聞いていただいて策定するということで、非常にありがたいと思う。今回、大きく変えようとか、どんなイメージを市長は持っているのか伺う。

(市長)

私は、教育委員会との議論の中で策定した平成 28 年 2 月の教育大綱について否定しているということではない。しかし、日々科学や文化が進展し、子どもたちの教育を取り巻く環境もやはり日進月歩という状況であり、そういう点を色々と踏まえ、平成 28 年当時と今の状況とを考えた場合に、例えば、当時ではまだ取り上げられていなかった様々な教材や、学校教育に関する色々な考え方などがある。当時の状況よりも、取り巻く社会状況、情報、そういう色々なものが大分変わってきているのではないか。そうすると、その当時の教育大綱のままで本当にいいのかということ踏まえて、やはり現状にしっかりと合わせて、あり方というものはどういうものかということ改めて教育委員会としっかり議論し、新しい教育大綱のもと、沼津市の教育行政を進めていく。そのようなことをしっかりと議論すべきときにきているのではないかとの思いがある。

(委員)

我々の意見もくんでいただくということで、他の委員ともども喜んでいるが、これは市長の色をすごく出していいのだと私は思う。前回作られた大綱も、当時の市長の色が出ているというか、我々も少し、それに加えて考え方を述べたという形で決定したものである。今回も市長は、市民や子どもたちに対する教育への思い、その思いの丈を盛り込んでいただければ、私は十分だと思っている。

(市長)

私自身も長きにわたり、青少年健全育成を始めとした子どもたちのための様々な取組を行ってきた。現在も、それは進行中であり、やはり沼津の教育に対する色々な熱い思いもある。その辺りの私の考えを、しっかりと教育委員会に明示するつもりであるが、総合教育会議の意味というのは、教育委員会と意思疎通を図りながらということもあり、私の独断と偏見の場ではないと思っている。私の思いもしっかりと伝えるが、議論をして、より良き教育大綱に結び付けられればと考えており、委員の言葉は大変身に染みて感じている。

そのほか、いかがか。

それでは意見も尽きたようであるので、スケジュールは、先ほど事務局から説明した内容で策定を進めていくこととする。

続いて、大綱策定に当たっての論点整理として進行する。

新たな沼津市教育大綱の策定に当たり、前回の会議で教育委員会からいただいた意見を踏まえ、大きく 3 点に要約した上で、それぞれについて私の考えを、こ

の場で申し述べたい。

まず1点目として、「子どもから高齢者まで、自分らしく生き、活躍できるための教育」である。

まちの主役である「人」を大切に、子どもから高齢者まで、市民の誰もが明るくいきいきと暮らせる「ヒト中心のまち」をつくることは、行政に求められている最も重要な役割であると考えます。様々な分野におけるAIやICTなどの技術革新、国際化の進展など、社会情勢が目まぐるしく変化する時代を迎え、未来を担う子どもたちが自分らしく逞しく生きていくためには、確かな知性や豊かな感性を身に付けるとともに、健やかな体を育むことが重要である。このため、未来を見据えた質の高い学校教育をはじめ、沼津ならではの魅力ある、地域の特性や学校の独自性を活かした教育活動などを推進することはもとより、学校規模・学校配置の適正化や計画的な施設の改修を図るなど、よりよい教育環境の整備に努めてまいりたい。

また、誰もが生涯にわたって学び続けることができるよう、様々な学習機会の提供や自主的な学習環境の充実などに取り組むとともに、スポーツの振興や芸術文化活動の支援などを図っていく必要がある。本年は「東京2020オリンピック・パラリンピック」が開催されることから、本市でも「スポーツのまち」として、包括連携協定を締結した日本フェンシング協会との連携による取組をはじめ、サイクリストの受け入れ環境の整備やサイクルツーリズムなどを推進するほか、スポーツの振興と交流の拠点となる新体育館の整備を進めていく。

次に、2点目として「郷土愛を育み、沼津への誇りに繋げる教育」である。

本市には、美しく豊かな海をはじめとする素晴らしい自然環境や食資源のほか、地域の歴史や伝統、日常から生まれる生活文化、本年に開園50周年を迎える沼津御用邸記念公園や、史跡をはじめとする文化財など、誇るべき地域資源が数多くある。このような地域資源については、「地域の誇るべき宝」として、あらゆる機会を捉え、様々な広報媒体などを活用しながら、積極的かつ効果的に情報発信を行い、市民の皆様それぞれにそれらの価値に対する認識を深めていただくとともに、保護や保存はもとより、観光施策と連携した利活用も図ってまいりたい。

また、未来を担う子どもたちが、安心して沼津のまちに出て、まちを楽しめるような「ヒト中心」の魅力あるまちづくりを進めることが、特に若い世代の郷土愛を育む上で重要である。これらのことによって、子どもから高齢者まで、市民の間に「沼津を愛し、誇りを持ち、自分自身が関わってまちを変えていく」というシビックプライドが醸成され、お互いの理解のもと、誰もが地域社会の一員として主体的に参画できる協働のまちづくりを進めることができると考えている。

次に、3点目として「地域総がかりで取り組む教育」である。

市民の価値観やライフスタイルが多様化している状況において、お互いを認め合う温かな人間性や健康な心身を育むことが求められている。こうした中で、幼

稚園・保育園と学校が課題等に対して情報を共有しながら共通認識を持ち、連携して施策に取り組むことに加え、幼児教育・学校教育と地域や家庭との連携を更に促進していく必要があると考える。学校や地域との連携に関しては、家庭における子育てと仕事の両立を図る保護者のため、学校施設を活用し、放課後児童クラブを設置するなど、子どもの居場所づくりに努めているほか、子どもたちが安心して地域で活動できるよう、交通安全や防犯などにも取り組んでいる。

また、様々な悩みや困りごとを抱える子どもや保護者のため、医療・保健・福祉・就労等との切れ目ない支援体制の構築を図ることが重要であると考えている。

さらに、地域と連携しながら、次代の沼津を担う青少年が社会や地域との関わりを深める取組を推進し、青少年の自立性や社会性などを育むことにより、将来にわたり地域社会を支え活躍できる人材の育成を図ってまいりたい。

これまで、学校と地域、各種団体等との連携を深め、地域総がかりで取り組む教育の考えを述べたが、子どもたちが楽しめるように、公園やまちなかの公共空間の魅力的な整備を進め、子どもたちがいきいきと育ち、まちに愛着を持てるようなまちづくりに取り組んでまいりたいと考えている。

以上の3点について、私のそれぞれの考えを申し述べたが、これらを具現化することが「誇り高い沼津を創造する 貴(たか)き志を持つ人づくり」につながるものと考えている。

さて、このように思いをまとめていく中で、まずは、沼津における教育施策の目的について、教育委員会と共通の認識を図りたいと考えた。ここで、私の考えを示して意見をいただきたい。

現在の教育大綱、教育基本構想では、その目的を「明日の社会を担う『夢ある人』づくり」と掲げている。それを成し遂げるべく、市と教育委員会、それぞれの機関で、施策を進めてきたところである。

一人一人が心豊かで充実した生活を実現できるよう、誰もが生涯にわたって学び、その成果を生かして、大きな夢や希望を持つ、そんな「夢ある人」が沼津市に育つことを目指してきた。「夢」を持つということは、明日へのビジョンを、希望を持つことであり、とても大切なことである。しかしながら、夢をただの夢のままで終わらせてはならない。これからは、その夢を実現するべく、変化する社会の中で高い志を持って学び続け、新たな挑戦を続ける、そんな人づくりをしていきたい。そして、「沼津を愛し、誇りを持ち、自分自身が関わってまちを変えていく」というシビックプライドを醸成して、誰もが自分らしく活躍できるまち・沼津を目指していきたい。

こういう思いから、これまでの「明日の社会を担う『夢ある人』づくり」というキャッチフレーズに替え、「誇り高い沼津を創造する 貴(たか)き志を持つ人づくり」を目的に掲げたいと考えている。この「貴(たか)き」というのは、「貴(とう)とき」といった「貴(たか)き」である。

これについて、意見を聞かせていただきたい。

(委員)

人を「育成する」とか「育てる」という言葉が、私のイメージにはあるが、市長があえて「つくる」という言葉、「人づくり」という言葉にしたという意味や思いなどを知りたい。

(市長)

青少年健全育成では「育てる」とか「育む」という言葉があるが、私は、地域のことを踏まえつつ、そして「地域のことを大切にしながら幅広い意味で色々なところで活躍してもらおう人材」という意味を含めて「つくる」とした。育むとか育てるとかというところと重なるが、あえて積極的な姿勢を示すということも含めて「人づくり」というところを念頭に置いて、このような記述をしたところである。

(委員)

そういった思いを保護者や市民がちゃんと理解できるといい。色々と勘違いしてしまうと思う。

(市長)

そのようなことも念頭に置きながら、進めていきたい。

(委員)

「貴(たか)き志を持つ人づくり」ということで、前回は、「夢ある人」であった。人間は自分が目標としている以上の存在にはなり得ないということが私の信条であり、そもそも子どもがこうなりたいと思う気持ちすらなければ何にもなれない。流されるまま生きていたら、流されるままに人生が終わってしまうと考えているので、貴(たか)き志を、是非、子どもたちに持ってほしいとは思っている。

私自身も子育て世代であるので、ユーザーの立場からすると、子どもがいじめなどに巻き込まれてほしくないという思いがある。私自身はそういう経験はなくてなんとかきたが、日本のいじめというのは、非常に陰湿で多数が少数に対してやっていることで、誰もが標的になる。それは、いわゆる“空気”。そのときに、この人は嫌われていて、もしくは、そういう要素があるというということで、みんなでいじめてもいいと。そういうことは恥ずかしいことで、いじめはよくないということを誰でも知っているものだが、そういう空気に流されて、誰もがそういういじめに加担してしまう、もしくは、いじめを黙認してしまう。そういうことは、海外から来た人から聞くと、海外ではそういうことをしたときに、それ

はおかしいと指摘する人がいるらしいが日本では非常に少ない。それは、なんか空気に流されてしまう感情があるかららしい。そういう意味で、やはり自分らしく生き、活躍できるための教育を進めるには、自分の意見を素直にというか、しっかりと主張できる人たちが育ってほしいと思う。世の中、こういうことは良くないこと、ああいうことは良いことというのは、誰しも知っている。知識としては、知識として知っているけれども、それを実践できない。結局、知らないことと一緒にになるわけであって、本来、良いことと言われていることを、皆がやれば、いい社会になるのだと思うが、なかなかそれができない。そういうことをやっぱりおかしいと、恥ずかしいことだということを周りの大人がちゃんと実践しないと、そういう社会になってしまうのだと思う。実際、そういう社会になっている、なりつつあるとは思っていて、SNSの炎上とか、そういう騒ぎをよく目にするが、そういうことがまかり通っている社会であれば、やはり、子どもたちが自分らしい意見を言ったりすることができなくて、周りに流されて「こういう人はたたいてもいいのだ」とたたき続ける。そういう社会は決して健全ではないものだから、そういうことがないようにしていただきたいと思う。これは保護者としての願いである。

市長がせっかく考えた「誇り高い沼津を創造する 貴(たか)き志を持つ人づくり」という目的だが、私は、子どもは沼津にとどまらず世界で活躍してほしいと思うので、誇り高い沼津を確かに創造してほしいのだが、人はもっと外に出ていっても構わないと思う。この目的だと、どうしても沼津に完結してしまいそうなイメージがあるので、もう少し日本全体、もしくは世界全体に活躍できるような人がいてほしいと思う。言いたいことがそうでないことは分かっているのだが、郷土愛を育み心につなぐ教育も大事だし、さらにグローバルに活躍できるような人材も育成してほしいと思っている。その辺の構成を考えていただけるといい。

(市長)

やはり「恥を知る文化」というものが日本の中にはあったと思う。要するに「こういうことをするとこういうふうになる」ということを、ちゃんと心の中に身に付けていくと、やはり少数を大多数でもっていじめるというのはあり得ない。そういうところを、しっかりと小さいころから育む環境は、大変重要であると考えている。また、そういうものをちゃんと持つということが、自分に対してのプライドとか誇りとかにつながってくるということである。指摘のように、どうしてもこの表記が、沼津に完結してしまうのかというところはある。委員は先ほど、外国の方々との話をされた。私もその辺りのことに共感するところがある。日本人が今一番しっかりと持たなければならないものは、個々のそれぞれのアイデンティティだということがよく指摘される。自分そのものの基は一体何であるのかということをしっかり見つめる。国際化ということがよく言われ、中には英語

がしゃべれる人が真の国際人だということを言う人もいるが、私は、それは間違っていると思う。日本人ということをしつかりと意識してこそ、真の国際化ということに通ずると考えている。そういう点では、自分の生まれ育った郷里ということに対して誇りを持つことができる人間であって初めて色々な世界、色々なところで活躍できる人材ができるのではないかとの理念がある。沼津で育って様々なところで活躍してもらおうというのは、私も大いに賛成であり、できうるならば世界に羽ばたいて行って、沼津市出身として活躍していただきたい。それぞれのアイデンティティがしっかりしているということが、第一ではないのかということが私の軸の中にあり、そういう思いからこういう表記をあえてしている。沼津のことだけを特化してというものはないが、表記については色々議論をいただき、より良きものにしていければと考えている。

(委員)

今の市長のお話は、私も全くその通り同感である。とても大切なことである。そのために、ここの表現として、誇り高い沼津、要は自分のいる場所。まずは自分の育った場所、沼津がやはり好きでないと、どうなのだろうかと思う。「どうせ沼津なんか」って、自分がお世話になった、育ったまちなのに、沼津をちょっとどこかで引いて見て、あるいはちょっと悲観的に見て、ということが多いが、本来、風光明媚でとてもいいまちであり、誇り高いまちだという思いを子どもたちに、と思う。目的は大きな項目として、これから他の基本方針や具体的な取組を大綱の中に載せていく。「誇り高い沼津を創造する」というくだりは、いいと感じる。

(市長)

新成人議会を毎年開催しているが、新成人が「沼津の良さ」ということを、誇りを持って話をされている姿を見る。一步外に出て初めて気が付いたということであり、沼津にいたときは、その辺りの素晴らしさが当たり前になってしまっていて、あまり認識することができなかったということである。生まれ育った環境の中で自分というものは形成されるわけであり、これは、心も体も同じように形成される。しかしながら、当たり前だと思っているときには認識することができず、一步外へ出て違う環境にいて初めてその辺りのありがたさ、すばらしさ、貴さ、こういうことを感じるができると思ったところである。できるならば、一步外に出て感じるのではなくて、この場において、学び育っている段階で、そういうことをしっかりと認識することができれば、正に沼津のために活躍してくれる人材にもなり得るし、そういうものを誇りに思っ自分のアイデンティティを大切にしながら、世界で活躍できるような人材になると考えている。そういう熱い思いも含めている。

(委員)

私も例年新成人議会を傍聴していると、ほとんどの皆さんが毎年、「進学して沼津を離れて沼津の良さが初めて分かった」と、そして「自分は沼津のために活躍したい」、あるいは世界に羽ばたく人も大勢いると思うが、「沼津に帰ってこういうことをしたい」ということを具体的に話す新成人の方も多数いる。ただ、沼津に帰って来たいが、彼らの活躍する場所があまりないという現状もあると思う。沼津に帰りたいのはやまやまだが、自分の能力が活躍できる場を、これは教育のことではないかもしれないが、ぜひ市長にその辺を、企業や、働く場所とか、彼らの思いを実現できるような沼津市にしてほしいと思う。よろしくお願ひしたい。

(市長)

委員の指摘のとおり、やはりその辺りで壁にぶつかることも事実である。多くの若い方々が高い志を持って沼津のために活躍したいと思うが、その活動をする場所、例えば団体に所属したり企業に就職したり、ニーズとマッチングするののかというところで、難しい面がある。沼津市内においては、オンリーワン企業がいくらでもあるが、その情報発信がなかなかされていない。沼津にある素晴らしい企業のことが知られていないことを解消するために、中小企業の皆様方と情報発信するための「ぬま job」を作り、企業の持っている情報の発信を沼津市からもしている。そして、大学等の就職担当に直接、沼津の企業のことや環境のことなどをしっかりと伝えることによって、沼津の良さを認識してもらい、実はこういう活躍する場があるということをもっと認識してもらえるような取組を現在進めているところである。また、中心市街地におけるまちづくりというだけではなく、企業、団体、大学の誘致とか、色々な方法があると思う。そういうことを積極的に取り組むことによって、指摘されたような、若い方々が活躍することができるような環境づくりを色々な方々の御理解御協力をいただきながら更に進めていきたい。沼津は自然環境に恵まれているだけではなく、首都圏から非常に近いという地理的優位性も持っており、沼津だけではなく、近隣市町との連携もあると思う。それぞれのまちが持つ素晴らしいコンテンツやポテンシャルを共有しながら、この地域の魅力を発信し、地域で活躍していただく、そんな環境づくりが非常に重要である。人材の育成と合わせて、育成した人材が活躍できる場所づくりをこれからもしっかりと進めてまいりたい。

(教育長)

私は学校で子どもたちと接してきた中で、子どもたちが大変な思いをしても頑張ってきたことに結果が伴ったときに、ものすごい喜びを感じた。結果を一緒になってみんなで喜び合うということも非常に良かったが、子どもが言うには、「当然嬉しいし、頑張ったから良かったと思うが、〇〇ちゃんが喜んでくれたことが嬉しか

った」とか、「〇〇ちゃんのために自分はこういうことができ嬉しかった」と言う。そういう喜びも、また、すごく気持ちがいい。嬉しいことである。「楽しい」、「学校にいて良かった」という発言も今までたくさん聞いてきた。「人のために役立ちたい」、「何か貢献をしたい」という思いは、自分の生き方や人生をより豊かにしてくれる。充実感、達成感以上に、人生を楽しめる、高められるという部分を感じる。そういった意味でも、やはり「貴(たか)き志」という表現は、インパクトがある。それとリンクして、やはり自分自身が誇らしいと思える。沼津のためというところまでいくには時間がかかるかもしれないが、家族のために、身近な人のために役立ちたいという思いを育てていく。大綱の目的は、非常に素晴らしいことと思っている。

(市長)

今年の「二十歳の集い」において原地区の会場で挨拶をした方が私の恩師でもあり、その言葉に感動した。『成人』とはどういう意味か。それは『人と成る』ということであり、『人と成る』ということは、これまでは色々な意味において支えられている立場であったのが、成人することによって、大人になって、これからは自分のことだけではなく人様のために役に立つ、要するに『他人のため』、そういうことができるようになるのが大人だ」と、そのような発言をされた。改めて大人になることの大事さを、その恩師の御挨拶の中から学ばせていただいた。「誰々のために」ということで、今教育長が話したが、そういうことができるということは、やはり小さい頃からの環境の中における育みというのが非常に重要だと思う。沼津の環境というのは、そういうことを醸成するための素晴らしいものが、たくさんあると思う。そういうことをきちんと意識して、人のために自分が活動することができるような人になれば、「沼津のために」とか「世界のために」、「日本のために」と活躍できる人になると私は思う。そのために、やはり我々が総合教育会議の中で議論していくことが、これからの未来を担う子どもたちにとっても、非常に重要であると考えている。

(委員)

前回もちょっと申し上げたが、子どもが貴(たか)き志を持つとか沼津に対して誇りを持つには、周りの大人が重要だと思う。私は弁護士であり、司法試験を受けるといったときに、親が「お前なんか無理だからやめておけ」と言っていたら、弁護士になることもなかったと思う。子どもが夢や志を持つに当たって、それを「やめておけ」とか、「どうせ無理だ」とか、そういうことを言う大人であってはいけないと思う。親もそうだし、先生もそうだし、周りの親戚とか近所の人でもそうかもしれない。未来は誰にも分からない。それを頭から否定したり、人の夢を笑ったりとかという人間に、我々がなってはならない。沼津に対する誇りも同じ。私は12、

13年前くらいに沼津に来たのだが、そこでちょっと驚いたことは、沼津の人は、本当に沼津のことを良く言わない。自信がないというか、「沼津はどうせ人口が減っていてだめだから」とか「西武もいなくなってしまったし」と言う。そう言っていたら、やっぱり子どももそう思う。私はいいところだと思う。自然豊かだし、食べ物もおいしい。本日は富士山がとてもきれいである。そういった部分がやっぱりいいものだと、皆さんが誇りに思っていたことが、子どもにとって誇り高い沼津になるのではないか、郷土愛になるのではないか。別の話だが、私は広報ぬまづで佐藤雅彦さん、東京芸術大学の教授と市長の対談を拝見し、私は学生時代から佐藤さんってすごい人だと思っていたので、その方がまさか戸田村出身だったとは知らなかった。都会的な人だと思っていたが、海でアメフラシと遊んだり、色々と廃材を使って夢中になって物を作っていたりしたところが今の原点になっている。そういった自然豊かな環境が、子どもが夢中になって、学んでいくというような環境が、沼津にあると思う。そういうふうに子どもが学んでいくことを後押ししたり、そういうことが可能な環境をつくったりすることを心掛けていただきたい。これからAIができてくれば、答えがすぐに出る。我々弁護士も、たぶんこれを入れたらすぐに回答が出てきて、そのうち失業するかもしれない。新しいものをつくれる能力、そこにはないものに対して新たに発想する力は、AIではできないので、今後、そういう人材が大切になってくるのではないのかと思う。是非、その新しいものを創造する、夢中になって学ぶ、学べる世界、まちであってほしい。

(市長)

今回、佐藤さんとの新春の対談を行ったのは、今みたいな話をさせていただく方々が一人でも増えてほしいという強い思いがあったからである。沼津に生まれ育って、あのように世界レベルで活躍するような方がいると知っていただくことは、沼津の方々に誇りを持っていただくことにもつながる。そんな思いを持ってもらうために、「ぬまづの宝100選」など、沼津の宝としてどういうものがあるのか、沼津の素晴らしさはどういうものがあるのかということ、皆がしっかりと認識することが大事である。マイナスな発想はマイナスしか生まない。市民が、自分の住んでいるところの素晴らしさを認識するような取組を行っていくことが、大変重要なことである。色々な戦略や広報を活用しながら、また、沼津を愛してやまない方が多くいらっしゃるの、そのような方々に燦々ぬまづ大使に就任していただいて色々なところで沼津の情報発信をしていただく、そんな戦略を行うということも大変重要だと改めて認識したところである。

(委員)

話を伺っていて、思い出したことがある。私は大学卒業後東京にいて、その後沼津に戻ってきたが、戻ったときには、「やっぱり沼津っていいところだ」とつくづ

く思った。東京で勤務先の先生に、懇親会のときなどに色々な自分の故郷の話をよくしていた。キャンプをしたこと、海や食べる物のこととか話したら、「よし、今度、慰安旅行を沼津にしよう」と言われて、みんなを連れて沼津でキャンプをしたことがある。大変喜ばれた。そうやって自分はやっぱり沼津の自慢をしていたのだと思う。外から沼津を見て、また沼津に戻って沼津を見ると、やっぱりいいところだと思う。そういう経験を、また、地域の一員として、いろんな場所で伝えたい。

「知・徳・体」の徳は、「豊かな心」とか「徳を積む」とかいうが、教育の中で徳を教えるということは、なかなか難しい。徳というのは自然と積まれるもの。特に徳力というのは、本当に家庭の中での教育が一番大切である。だけど、周りはなかなか家庭までには入り込めないものであり、そうしたときにどうするのかというと、今市長が話されたこの3点目の「地域総がかり」、地域の力が今こそやっぱり大事だと思う。子どもたちの自然体験であったり経験だったりというのは、例えば、田んぼに素足で入ったときに、足がむにゅっとする感じとか、魚をつかむ感じ、それから、昆虫を触った感触とか、そういうものは、やってみるしかない。ITではとてもそれは味わえない。あと、色々な人と関わることである。人に対する思いやりというのは、人とたくさん会ってみなければ、また痛い目に遭って初めて生まれてくる。家庭だけでは、おじいさん、おばあさんがいないとか、地域の力、町内の力も今弱っている。そういうところをもう一度、「地域総がかり」ということをお題目に、子どもたちに場を提供しながら大人も考える。徳を積むとか、豊かな心というのは、言ってなかなかできるものではないが、そういう環境に身を置いてみる。生涯、徳は積んでいかなければならない。あるいは豊かな心で生きていたいと思う瞬間を、やっぱりたくさん作っていききたい。それには沼津全体に人材がいっぱいいる。実はそれがなかなか発掘されていないので、そういう人を発掘できるようなシステムで、それが各地で起きてくると、沼津全体にも自然と力が湧いてくる。だから「地域総がかりで取り組む教育」ということを方針として打ち出すことはとてもいいことだと思っている。市長、「ヒト中心のまち」というヒトは、車や物というものの対比という意味ですね。人と自然という対比だと違うかなあと考えた。

(市長)

まちづくりにおける「ヒト中心」というのは、今は車を中心としたまちづくりが進められているから、人を中心としたまちづくりに変えていくということである。人が人を大切にしていかなければならない時代だと思う。これから技術革新により、どんどん機械化して、人というものの存在が軽んじられる、そんな時代になっていくのではと感じている。やはり根本にあるものは、人なんだというところをしっかりと見つめ直す。そういう意味を含めて「ヒトを中心とした」という話をしたところであり、人を大切にするのだというところで結び付けられるようにと思いを込めた。

(委員)

委員の話聞き、思い出したことがある。自分も東京に12年ほどいて、帰ってきて今福祉の仕事をしている。東京にいる間、帰省してくると必ず、沼津の駿河湾の夕日を見にいったことを思い出した。それは小学校3年生くらいのとき、友達と海に釣りにいって帰ってきて、その途中に会う、近所のおばちゃんとか、親戚のおばちゃんとか、釣り道具屋のおじちゃんとか、関わりを持っていた。自分も友達を連れて、空をよく見ているということをしてきた。沼津に帰ってきて福祉の仕事を始めるときに、お世話になった地域の皆さんに恩返しをしたいという気持ちが第一にあった。夕日と人との関わりの中で自分は育てられたのだ、地域に育てられたんだという思いを強く自分は持てた。なぜ持てたのかと思ったら、それは恐らく、自分がボランティアで最初に老人ホームでお会いしたたくさんの高齢者の方たちとの話や、その人との関わりの中でその思いがどんどん自分の中で機運になっていて、この仕事をしたいと思ったわけである。目的の中から派生していく取組の中で、人との関わりの中で非常に徳力が鍛えられていく、育っていくことがあるのではないかと。是非、子どもたちにそういう体験をさせたいと思った。

(市長)

「地域総がかり」で自らが気が付かないところで育てられている。そのような環境の中で育まれた心だからこそ、ある日突然開花して、又は気が付いてということがある。ベースが全くないところには気付きはない。沼津には、昔から「地域の子どもは地域で育てよう」と一生懸命にやっている方々がいらっしゃる。今は一部の方が担っているかもしれないが、委員の話にあったように、色々な人材がそこら中にいらっしゃる。そういう方々を活用して、本当に「地域総がかりで子どもたちを育てるのだ」という環境を整えば、やはり大人になってから、自分の役割とか天命とか、そんなことを知るときが来るのではないかと考えている。

今、委員から本当に様々な意見が出てきて、その思いをしっかりと受け止めなければいけないと感じたところである。また、この会はやはり教育委員の皆様と意思疎通をしっかりと図ることが大変重要であり、こういう貴重な意見をどんどん出していただいたということは、ありがたいと受け止めた。今後の取組みの仕方もあるが、「誇り高い沼津を創造する 貴(たか)き志を持つ人づくり」、この目的を捉えて策定を進めていきたいと考えている。

では、次へと協議を進めていく。

大綱の具体的な内容であるが、基本的な方向性について、私の考えをまとめて図に整理したものを、ここで事務局から説明する。

(事務局)

新しい教育大綱は、第5次沼津市総合計画と始期を合わせ、令和3年度から開始し、社会情勢の変化などを踏まえ、5年をめどに検証を行う。

基本的な方針として、(1)「知・徳・体」＝人間力を磨く教育、(2)地域総がかりで取り組む教育とする。

(市長)

では、御意見等はいかがか。

(委員)

今回、ここまで出ている大綱の考えであると、具体的な取組案が明確に出されているように思う。教育委員会は教育基本構想の改訂版を27年3月に出した。この内容が今の教育大綱と齟齬が生じることは、たぶんないだろうと思うが、今回の大綱を策定するに当たっては、教育基本構想も構成などを入れ替えることになるのだろうか。

(市長)

事務局からの説明はいかがか。

(事務局)

今回は、大綱を作る直前の平成27年3月に沼津市教育基本構想を作り、平成27年4月からの年度において大綱を作ったという経緯がある。今回は、第5次沼津市総合計画、これは市の最上位の計画であり、これを踏まえながら大綱を策定するというのを市長が決めている。従って、この大綱を踏まえた上で、今ある教育基本構想を見直していくことを考えており、大綱と教育基本構想との関係については、ある程度リンクしていくような形になる。大綱は大きな方向性であり、教育基本構想は、今後実施していく教育の施策の具体的な指針となるものであるもので、教育基本構想には、もう少し詳しく細かく内容を記載していくように考えている。

(市長)

そのほか、いかがか。

(委員)

「豊かな心、徳力の育成」のところ、これは「確かな知性、知力の育成」にもリンクするように思うのだが、心というのは、先ほどの話にもあったが、やはり人と人との関わりの中で育っていくと思う。それにはコミュニケーション能力が必須であるが、前回、ほかの委員から「沼津市は英語力を育てる取組をしているが、も

っと国語力の育成に力を入れたほうがいいのか」という意見があり、自分もそう思う。スマートフォンなどの普及で、漢字を記憶する力が衰えている。漢字が書けないという子が増えているような話をよく聞くし、SNSなどが現代の社会ではなくてはならないものになっているので、短い文章で自分の気持ちを伝えなくてはならないということが増えてきている。その中でも、心がないと誰でもそうであるが、自分の気持ちを相手に伝えることもできないし、相手の気持ちをくむこともできないのではないか。コミュニケーションの力がない状態でSNSを利用していくと、文章を勘違いして仲たがいになっちゃったり、仲間はずれやいじめなどに発展するきっかけになってしまったりというような危険性もはらんでいるのではないかと思うので、子どもたちを守るという意味でも、国語力を育てる取組ということも必要な時代なのではないかと考える。

(教育長)

沼津市では、10年以上前から言語科として言語能力の育成に取り組んでいて、新学習指導要領でも、言語については国語科を中心にして取り組んでいくこと、そこから読解力、表現力、判断力を総合的に、どの教科においても育むように取り組んでいくことが方向付けられている。やっぱり沼津市としても、言語科に特化するのではなくて、どの教科でも意識していくということが必要ではないかと思っています。

(委員)

先ほど市長の話の中の2点目「郷土愛を育み、沼津への誇りにつながる教育」という、とても大事な項目であるが、これが、取組案の中では、具体的に「地域総がかりで取り組む教育」の中の「地域が学びを育てる」という中に含まれると思う。ここは大切なことなので、もう少し具体的に「郷土の伝統や文化、地域資源を生かした教育の推進」ということ以外にも、深く掘り下げてやっていただきたい。大切なことである。沼津に対する誇りを持っていただくための部分でいかがか。

(市長)

御指摘のとおり、その辺りのところ、心を育てていくということにおいて、非常に重要なファクターになると考える。より議論していきたいと思う。資料にある取組案以上に、例えばという御意見があれば大変ありがたいが、今の段階で何か考えがあるだろうか。

(委員)

今の段階で具体的なことは浮かばないが、また皆で考えていきたいと思う。

(市長)

これは、現段階で考え得る色々なものを出したという状況であり、これが完璧であるとは私も思っていない。指摘していただき、より良き方向に、より良きものにしていく、それがこの会議だと思っている。

(委員)

色々書いてあり、本当に「全部乗せ」みたいな感じであるが、いずれも大事と感じる。確かに委員が指摘したように、前回、私は、国語力が非常に大事で、それを重視していただきたいというところを述べたが、それはそれなりに触れている。「コミュニケーション能力の育成」とか、「自分で考えて表現する力」とかあるが、「自分でものを考えて新たなものを創造する力」を養成していただきたい。自分の意見を言える、自分でまず意見を持つということと、新たなものを創る創造力の涵養をもう少しどこかに盛り込んでいただくといい。あと委員の意見にあった「郷土愛を育む」ということは大きな目標である割にはあんまりなく、取組の中に郷土愛をもう少しクローズアップしたところがあってもいいと思う。あとは、どこに盛り込んだらいいかわからないが、やっぱり、人間に一番大事なものは愛である。「愛する心を育む教育」は、自己愛もそうだし、家族愛もそうだし、郷土愛もそうだし、隣人愛もそうだし、そういう心を養い、育まれるような社会になってほしい。全体的にそういうことは含まれているのだろうと思うが、やっぱり教育としては目的にしていきたい。あとは、愛という言葉は、言うとも照れ臭いが、人間の幸せというものは、どれだけ愛するものがあるかによって決まるのではないかと思うので、そういうところが人間の幸せにも結びついているのではないか。そういうことをどう盛り込むのかということとはなかなか難しいところであるが、郷土愛も、もう少し、取組の中にあるといい。いずれにしても、教育に関しては、先生方も専門家もいらっしやって、私は別に教育に携わったことはないし、教育って一生に一回しか自分は受けられないのだから、自分の受けた教育が正しいかどうか、よく分からない。レストランだったら、あそこ行って、ここに行って、あそこおいしかった、いまいちだったと言えるが、自分の受けた教育が果たして良かったのか、子どもに与えている教育は果たして正しいのか、みんな分からない。そうはいつても、今振り返ってみると自分はいい教育を受けたのかなあと思えるのは、やはり自分が愛されて育ったというふうに振り返って思えるからである。そういうふうに子どもが受けたいと思えるような教育を与えていただけたらいいと思っている。

(市長)

貴重な意見をいただいた。佐藤さんの話にもあったが、クリエイティブというところ、物事を新しく生み出す、発想するという部分が、やはり大変重要だと認識していたところである。また、指摘していただいたように、愛は、すごく大事である。

愛について取り上げた部分がないというところがあるので、記載の仕方も検討してみたいと考えている。

(委員)

今回、教育の大綱をこしらえようとしている。「誇り高い沼津を創造する」というのが最初の目的としていて、確かな知力、徳育、体育とあって、よりそれを具体化すると一番右端の取組案の部分、そこまで大綱に載せるべきなのだろうか。大綱であるから、方向性が示されていればいいのではないか。あとはそのためにそれに見合った形で、教育基本構想に委ねておけばいいのかと。大綱をそこまで細かくしてしまうと、市長の考えが、何かぼけないかと。だから、先ほど市長の話にあった点や「郷土愛を育み」という部分をもうちょっと大きく取り上げて大綱とするのはどうなのだろうかと思う。

(市長)

大綱は、これを基軸として、本当に重要になっていくものと思う。新しい大綱を色々と議論していく中において、その基本となるものは一体何か。現場サイドの取組をしっかりと踏まえた上で、積み上げていくということが非常に重要だという認識がある。そういう点で今回は、委員と議論を行うため、ここの記載は何を根拠にして、どんなことを念頭においているのかというところを、しっかりと共有するため、こういう記載をした。今後、この大綱をまとめていくに際し、どこまで記載するのももちろん大事な議論である。本日は、ちゃんとした議論がなし得るようにしたものであることを御理解いただきたい。

(教育長)

私が最近の子どもたちを見て感じることは、授業態度は非常に落ち着いて真面目に取り組んでいる。先生の言うことも、比較的素直に聞く。それから、心の面でも、優しい、おとなしい、穏やか等と感じる。どちらかという、逞しさという部分が、今の子どもたちにはもう少し必要ではないだろうかと感じる場面が非常に多いと思う。それを踏まえて、「健やかな体、体力の育成」について話をしたい。12月に、スポーツ庁から2019年度の全国の体力調査の結果が公表された。この体力調査は、2008年から小学校5年生と中学校2年生を対象に実施している。昔はスポーツテストがあったが、全国的な体力調査は2008年からである。スポーツ庁は、小中学生男女ともに体力が低下していると発表した。特に小学校5年生の男子は、過去最低のデータが出た。50メートル走、シャトルラン、あるいは持久走があるが、特にこういう走る競技で大きく低下しているということが公表された。静岡県をみると、小学校5年生の男子では、全部で8種目あり、その中で長座体前屈という種

目があるが、それ以外の7種目は過去最低である。昔から、静岡県はソフトボール投げが非常に思わしくない。投げの力がなく、全国平均よりも1メートル以上も短い。ワースト3位である。小学校5年生の女子に関しては、5種目で過去最低。それが、中学校2年生になると、男女ともに全国平均を上回る。全国学力・学習状況調査もちょっと似ている傾向があつて、いろんな分析がなされている。総合的に8種目の合計の平均を見ると、小学校5年生の男子が全国29位。そもそもこういう順位をつけることがどうかとも思うが、一応データとしては、小学校5年生の女子が全国24位。中学生2年生の男子は全国16位、中学校2年生の女子が全国6位であった。沼津市では、中学校2年生男女の20メートルのシャトルランという種目以外は県の平均をさらに下回っている。この体力テストは学校以外に大人向けでもやっているが、20代から30代前半の人たちのデータも全国平均を下回っている。分析してみると、授業以外の運動時間が非常に減ってきて、テレビやスマホを見ている時間が非常に増えている。それとともに、食事の関係で肥満の子どもたちが非常に増えていて、朝食を食べない小学生もまた増えてきた。そういうライフスタイルの改善ということが今後非常に求められるのではないかと思う。これは全国的な傾向でもあり、静岡県、沼津市も同じかと思う。小学校に入学する前からスポーツに親しむ環境とか機会を作っていくことが非常に大事かと思っている。また、運動不足ということが要因の一つと考えられている小児成人病、生活習慣病が非常に増えている。去年から市内の中学校区で小中一貫教育に取り組んでいるが、ぜひ小中一貫教育の視点の一つとして、系統的な体力づくり、「自分たちの校区では投げる力はあるが走る力は弱い」とか、校区の実態は色々違うものだから、系統的な体力づくりを盛り込んだ小中一貫教育をやっていく必要があるのかということを感じた。それから、子どもたち、市民は運動に関心はあるが、実際に運動をしていないというのは、時間に余裕がないという部分もあるので、気軽に取り組める環境づくり、ここはまちづくりも関係すると思う。例えば、京都はレンタル自転車があつて、自転車で色々な文化財を見て回ることができる。バスで回ると非常に時間も効率もよくなくても、文化財巡りのサイクリングコースやウォーキングコースなどがあると、家族と一緒にということもいい。さらに、これから東京オリンピック・パラリンピックがあるが、スポーツを見る、観戦するということは、子どもの成長に、多くのメリットがあると私は考えている。ラグビーの世界カップや箱根駅伝、こういうものを見て、全力で向かっていく、全力で闘うことのすばらしさを選手の姿から大人も子どもも感じると思う。持てる力をすべて出し切る、最後まであきらめずに取り組む、こういうことは、スポーツはもちろん、それに限らず日常生活、勉強、そして社会に出て非常に大事なことであると思う。それから、今度、平野美宇さんが沼津市出身ということで、市役所に応援の看板も出ているが、オリンピックに団体で出場する。彼女は前回のオリンピックには選手として出ることができず、選手の荷物を運ぶなど非常に辛い思いをしてきた。そういった、代表選手に

なるまでに積み重ねてきた努力、見えない部分も伝えていくということは大事かと考える。そういう苦難を乗り越えて積み重ねてきた努力の末にトップアスリートとして今いるということが子どもたちにも分かれば、やっぱり子どもたちは努力することに希望が持てる、物事に取り組む姿勢が変わってくる、頑張ってる夢をあきらめないという思いが出てくるのかと思う。それともう一つ、スポーツを見るということは、今後やってみたいと思う競技、あるいは、そういうスポーツをやっている選手にあこがれる、そういう機会にもなる。色々なアスリートのインタビューを聞くと、そういうような偶然の出会いをよく耳にする。市長がフェンシングを通じて沼津を、とよく話されているが、子どもたちもスマートフェンシングをぜひ体験してみたらどうか。来年度、市内の小学校でそういうオリンピック選手の指導のもとに体験授業が実施できるといい。そこで面白いとか楽しいとか何かを感じるという機会も大事なのかと思っている。世界のトッププレーヤーになることが昔は無理だろうと思われていたことが、今、野球もそうであるし、水泳、卓球、バドミントン、テニス、日本人が世界の舞台で活躍している。そういうところも日本人としての誇りみたいなものが根付くきっかけにもなる。あるいは国際化が進んでいるからこそ、未来ある子どもたちにそういう気持ちを持ってほしいと思う。オリンピックは、非常にそういう点でもいろんなことに触れる機会になるのかと思った。それから、ラクビーワールドカップでワンチーム、それと、ノーサイドの考えにも触れたい。あれだけ激しい戦いをした後に、終わると互いに称え合う。子どもたちが真のスポーツマンシップを学ぶすごくいい機会である。だから、この「健やかな体、体力の育成」には、そういう思いを込めて、市長から冒頭話があったようにスポーツのまちとして、教育大綱にその方向性を示していただければと思う。生活の中に自然にスポーツが存在するという姿を目指していくのではと思うところである。

(市長)

今年は、特にオリンピック・パラリンピックが開催される年ということで、自転車競技が北駿地域と伊豆市で行われ、まさにトップアスリートの活躍を見る最高のチャンスである。一人でも多く子どもたちが、アスリートの方々と接触する機会があればと考えている。日本とカナダのナショナルチームによるフェンシングの事前合宿もあり、それらを活用して、本物を見る機会を設けていきたいと考えている。また、オリンピックレガシーと言われるが、この「レガシー」ということを意識しながら教育に生かす。また、もっと気軽なスポーツ、軽運動でもいいが、とっかかりが非常に重要ではないのかと思う。気楽に体を動かす程度から本格的なものまで段階があれば、先ほど話が出ていた子どもたちの体力テストは非常に残念な結果が出ているところであるので、「地域総がかり」という中においては、アスリートまではいかなくても、色々な競技種目にかかわっている方々と連携することによって、子どもたちの運動能力の向上などにも繋がってくるのではと思うところである。そ

ういう意味でも「地域総がかり」というところに、スポーツを活用して取り組んでまいりたい。

(委員)

まず、取組案のところは、委員が指摘したようにここまで細かく書くかは別として、「健やかな体、体力の育成」の考えに、保健教育や食育の推進とあるが、それは、地産地消に取り組むことによって、郷土愛にもまた結びつくと思うので、沼津産の食材を給食で出したりすることも郷土愛に結び付くところである。その点を入れていただきたい。

(市長)

市内の高校生を対象として、沼津市の特産品を活用したメニューのコンテストを開催した。グランプリ、準グランプリを12月に決め、昨日は実際に試食した。地産地消という取組において、地域の高校生に、どんな沼津産の農作物があるかなどを認識してもらい、それを活用して、おいしいものを作るという活動を行っている。さらに、このメニューを、地域にある企業の社食や学校の学食で使ってもらい、そういった取組も行っている。地域でとれた食材というものを大切にすること、やはり郷土愛に繋がるということであり、その指摘に感謝する。

そのほかにいかがか。

では、本日、色々な観点からの意見をいただいた。これらを整理し、次回、大綱の素案を示してまいりたい。次回は4月頃の会議開催としたいところである。

以上で、予定していた会議日程をすべて終了した。

本日の総合教育会議を傍聴された議員の皆様方、学校関係の皆様方にも心から感謝を申し上げます。

5 閉会